

はまだい小笠原諸島周辺海域

評価対象種：ハマダイ（小笠原諸島海域）



令和8年4月

資源の水準と動向「高位・増加」

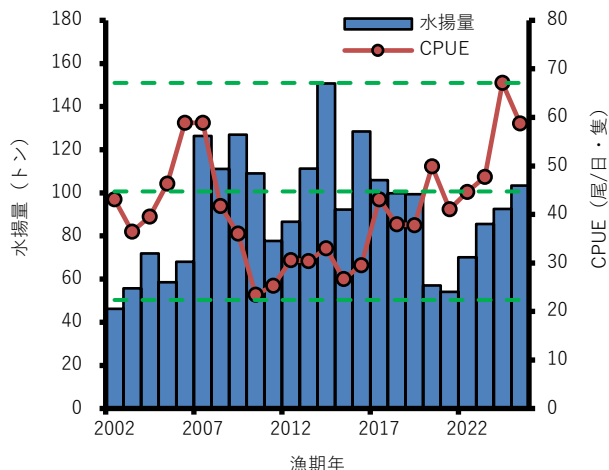


図1 水揚量とCPUEの推移

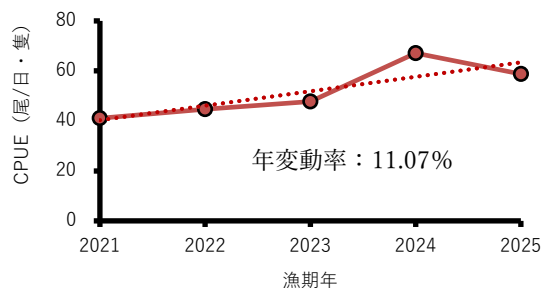


図2 底魚一本釣りCPUEの年変動率

2002年以降の小笠原諸島海域におけるハマダイの水揚量は、2007年まで概ね増加した後、増減を繰り返していた。(図1)。

一方、CPUE(父島の漁船^(※)による底魚一本釣り漁業1日1隻あたりの水揚尾数)は2006年から2010年まで大きく減少したあと、再び増加傾向を示している(図1)。

本資源評価票での資源量指標値はCPUEとした。2025年における資源の水準は、CPUEが最大値となった2024年の67.1尾/日・隻の2/3以上である58.7尾/日・隻のため「高位」とした(図1)。

資源の動向は、直近5年間のCPUEから算出した年変動率が11.07%となり年間5%以上の増加が見られたため「増加」とした(図2)。

※各年の火山列島での操業を除く水揚量の上位から抽出

生態学的特性

- 分布・回遊：温帯～熱帯域に広く分布しており、日本では伊豆・小笠原諸島及び紀伊半島以南の水深110～500mに生息している^{1、2)}。
- 年齢・成長：小笠原海域では尾叉長が、1～2歳で約4～14cm、4～5歳で約30～36cm、19歳以上で77cm以上となる²⁾。
- 成熟・産卵：小笠原海域及び琉球列島海域では産卵期は春～秋と考えられている³⁾。小笠原海域においては2～3年間隔で小規模な卓越年級群が発生している可能性がある²⁾。
- 被捕食関係：小型イカ類、魚類などを捕食し、サメに捕食されることがある^{1、4)}。

東京都におけるハマダイ漁

- 漁業：小笠原海域においては、底魚一本釣り漁業(知事許可漁業)により、主に聳島列島周辺～火山列島の水深200～400mの漁場で操業が行われている。
- 漁法：底魚一本釣りにより漁獲される。
- 管理：東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を作成し、母島では一本釣り漁業において自主的資源管理(休漁日の設定)に取り組んでいる。

- 1) 下瀬 環・五味伸太郎. 2024. 令和 5 (2023) 年度マチ類 (奄美群島・沖縄諸島・先島諸島) の資源評価. 国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所水産資源研究センター.
- 2) [東京都島しょ農林水産総合センター. 2024. 小笠原諸島海域におけるハマダイ資源の現在とこれから～ハマダイ資源の高度有効利用を目指して～. 令和 5 年度東京都島しょ農林水産総合センター主要成果集.](#)
- 3) 海老沢明彦. 2007. 琉球列島海域に分布するハマダイの産卵期と成熟体長. 平成 17 年度沖縄県水産試験場事業報告書, pp 91-92.
- 4) Okuyama J, H. Shishidou and T. Hayashibara. 2019. Post-release horizontal and vertical behavior and philopatry of deepwater longtail red snapper *Etelis coruscans* around a bank. *Fish. Sci.* 85(2):361–368.